

31.春日野道駅 <「日本一怖い駅」だった春日野道>

もともと阪神電車は「鉄道」ではなく路面電車などの「軌道」であった。既に大阪-神戸間を「特許」された今の東海道線があるため、許可が出なかった。1890年に「軌道条例」が制定されたのをうけて路面電車の扱いで申請し「免許」をうけた。このため、鉄道ではいろいろな制約があったが、軌道法は制約が緩く最高速度も規定されていない時期があった。1933年に岩屋-三宮間を地下化した時に廃止予定だった「春日野道」駅が住民等の要求を受けて駅を造ることになったが、既に設計済みのトンネル内の上下線の間にはしかできなかった。このため、ホームは幅3m、長さ120mとなった。当初の阪神電車の車両は幅2.3m、1両は14mであったがその後の大型化で幅2.8m、長さ18.8mになった。このため、ホームを両側20cmずつ削って2.6m幅になった。このためホーム幅2.6mで、電車の幅2.8mより狭いことになった。これは、鉄道営業法33条3項の3m以上という制約に触れることにもなった。この駅は特急や急行が85-90km/h程度で通過するため、ホームにいと非常に「怖い駅」であった。

その後2004年に、線路の両端にホームをつくり現状は改善されている。ちなみに阪急春日野道も3.5m程度で、中津駅は若干狭い。路面電車では愛知県の西枇杷島駅などで60cmの島式ホームがあるが、,,。なお、この幅の狭い、阪神の春日野道駅での事故は皆無だったということである。(宮本英希 記)

